

第3章 第3次計画の評価と課題

1 評価

第3次計画の策定（平成29年度）に際して、計画の成果を確認するための指標及び計画最終年度に達成すべき目標値を定めました。

令和3年度の統計値を「評価値」として、「目標値を達成した指標」を □、「策定時から改善した指標」を □ で示しました。

1 食事の重要性、食事の喜び、楽しさが理解できる

指標	第3次計画 策定時値 (H28)	評価値 (R3)	目標値 (R4)
食事をおいしく食べている人の割合 (*1)	92.7%	95.0%	95%
朝食を摂る児童生徒の割合 平日 小学生・中学生 (*2)	(小)97.8%	(小)97.9%	増加
	(中)95.6%	(中)95.7%	
毎日朝食を食べる3歳児の割合 (*3)	93.2%	94.7%	95%
1日3食食べている人の割合 (*1)	86.3%	88.6%	95%
60歳節目歯科健康診査で自分の歯が 24本以上ある人の割合 (*4)	81.9%	87.8%	85%

<出典> (*1)健康基礎調査 (H26年度、R1年度) (*2)朝食に関わる実態調査
(*3)3歳児(保護者)の食生活等実態調査 (*4)節目歯科健診結果調査

2 望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自己管理ができる

指標	第3次計画 策定時値 (H28)	評価値 (R3)	目標値 (R4)
食の体験教室実施学校数	5校	0校	10校
メタボリックシンドローム予備群と 該当者の割合 (*1)	27.9%	33.0%	減少
血液検査の結果を活用した生活習慣病予防 に関する指導を実施した学校数	32校	46校	増加
20～39歳の人の中で毎回の食事に主食、 主菜、副菜がそろっている人の割合 (*2)	44.8%	17.3%	70%

<出典> (*1)特定健診・特定保健指導実施結果総括表
(*2)健康基礎調査 (H26年度、R1年度)

3 正しい知識・情報により、食品の品質や安全性等について自ら判断できる

指標	第3次計画 策定時値 (H28)	評価値 (R3)	目標値 (R4)
児童に対する食品衛生啓発 (教育現場での必要度アンケート回収率)	84.3%	62.0%	100%
加工食品や外食の栄養成分表示を参考に している人の割合 (*1)	55.8%	48.0%	60%
ぎふ食と健康応援店登録店舗数	189 店舗	300 店舗	220 店舗

<出典> (*1) 健康基礎調査 (H26年度、R1年度)

4 食物を大切にし、食物の生産等に関わる人々に感謝できる

指標	第3次計画 策定時値 (H28)	評価値 (R3)	目標値 (R4)
市民野菜づくり講座参加者数	70 人	88 人 (R1で事業終了)	80 人
ごみの減量・リサイクル講座参加者数 (*1)	2,460 人	2,088 人	3,000 人
食べキリ協力店登録店舗数	—	110 店舗	150 店舗

<補足> (*1) P.36「ダンボールコンポスト講座」など、ごみの減量やリサイクルに関する講座全般の参加者数

5 食事のマナーを身につけ、食事を通じた人間関係を大切にする

指標	第3次計画 策定時値 (H28)	評価値 (R3)	目標値 (R4)
親子料理教室などの開催数 (*1)	80 教室	中止	増加
食生活改善推進員自主活動 開催回数・参加者数	267 回	274 回	増加
	11,521 人	4,071 人	
朝食を家族とともに食べる児童生徒の割合 休日 小学生・中学生 (*2)	(小)37.9%	(小)47.4%	増加
	(中)27.0%	(中)37.2%	

<出典> (*1) 岐阜市次世代育成支援対策行動計画 (*2) 朝食に関わる実態調査

6 市の特産品や日本の食文化・歴史が理解でき、生活に反映することができる

指標	第3次計画 策定時値 (H28)	評価値 (R3)	目標値 (R4)
地場産の農産物を食べている人の割合 (*1)(*2)	74.3%	76.3%	増加

<出典> (*1) 市民意識調査 (H28年度) (*2) 市政モニター (R3年度)

2 課題

令和3年度及び令和4年度に開催した岐阜市食育推進会議において、課題を以下のように整理しました。

改善すべき課題としては、

- ・肥満度が20%以上の児童生徒の割合の増加
- ・働く世代の食の乱れ
- ・メタボリックシンドローム予備群と該当者及びHbA1c5.6%以上の人の割合の増加
- ・低栄養傾向の高齢者の割合の増加 などが挙げられます。

また、新型コロナウイルス感染症の流行による人との接触を伴う活動の中止や縮小、テレワークによる在宅時間の増加、外出自粛などは、すべての世代における活動量の低下、食生活を含む生活習慣に影響を及ぼしていると考えられます。

第3次計画の最終評価で目標値に達成できなかった指標のうち、「食の体験教室実施学校数」「児童に対する食品衛生啓発」「ごみの減量・リサイクル講座参加者数」「親子料理教室などの開催数」「食生活改善推進員自主活動」については、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う市民対象の教室や講座の中止などによるものです。

<食育推進に関する課題>

- 各世代において、正しい食習慣の必要性や望ましい栄養の摂り方などを理解し、自己管理ができるよう、多様な関係者と連携したライフステージに応じた食育の推進
- 健康寿命の延伸のための生活習慣病の発症予防と重症化予防につながる食育の推進
- 栄養・環境に配慮した持続可能な食を支える食育の推進
- with コロナの時代に対応した食育の推進
- 誰もが主体的に取り組めるよう、生活様式の変化に合わせて、デジタル化に対応した食育の推進

